

# 生物チャレンジ2008新聞

2008年8月24日(日)

## 菌類の新たな一面に迫る

昨日から今日にかけて、生物学類の14の研究室で最先端研究体験が実施されている。初日にあたる昨日は、どんな様子だったのだろうか。

「植物寄生菌の採集・観察」を行った、山岡裕一先生の研究室にお邪魔させていただいた。

まず始めに、スライドで様々な寄生菌が紹介された。中でも虫を介して木を腐朽させるキノコの話は、その奇妙な形態に驚くとともに、生物の多様性について心ひかれずにはいられない瞬間でもあった。

その後は一人ずつルーペを持ち、野外観察へ出かけた。野外観察は、研究室から一歩外に出た瞬間から始まった。研究室から屋外へ行く途中の非常階段で地衣類を発見したり、屋外で植物の葉を見て、様々な植物に菌類が寄生していることを実感できたようだ。普段歩いている道でも、少し注意して見れば多くの生物を見つけることができる。「菌を同定するためには、宿主である植物の同定もできていないと難しい」と先生が仰っていたことから、



同定することの難しさがうかがえた。参加者は各々、持っていたビニール袋に植物を集め、実験室へ戻って標本作製した後、光学顕微鏡を用いて寄生菌の形態観察を行った。

菌類といえば、生態系で分解者と位置づけられているという印象が強いが、それだけでなく他の生物に寄生や共生しているものも多い。昨日の体験を通して、参加者たちはそんな菌類の新たな一面を知ることができたのではないだろうか。

## 一人では学べないこと

ここからは、雰囲気もがらりと変わり、筑波大学体育系教員の協力を得てのグループワーク。本当は野性の森という野外の施設でやるはずだったが、雨のため急遽総合体育館の中で行った。残念。

しかし屋内にもかかわらず、これが本当に楽しかった。

まず始めにグループを作ったのだが、単に人を分けるわけではない。軽く体を動かした後、出された動物の名前の文字数の人数でグループを作るのだが、女の子を1人入れなくてはならないなど条件がある。簡単なようだが、周りの人たちとコミュニケーションを取りながらやらなくてはならない。少しずつ参加者同士の会話が増えていく。

約9人のグループをつくり、本題のゲームをグループごとに開始。これらのゲームがまたすごい。「UFO」「日本列島」「ヒューマンチェーン」など、名前だけではどんなものか想像できないゲームだらけだが、すごく盛り上がった。例えば「アップサイドダウン」。9人がマットの上に乗ったまま床に足をつけずに、マットの裏表をひっくり返すというゲームである。玄関に敷いてあるようなマットの上に9人も人間が一斉に乗るのだ。これだけでもきついのに、マットを折り返ししながらひっくり返すと面積は減るし、ひっくり返している部分を踏んでしまうとマットが動かないからそこも踏めない。マットから足がはみ出した瞬間に最初からやり直し。そんな状況の中、みんなで頭と体をフルに使って難題に挑戦していく。ある人はリーダーシッ



プを取ってみんなに指示し、ある人はマットを少しずつずらし、ある人はマットに乗っている人数を減らすために他の人をおんぶし、ある人は少しでもみんなが乗れる面積を増やすために体をくねらす。もう少し、あともう少し。あ、出来た。ひっくり返った瞬間のみんなの歓声。笑顔が印象的だった。とても生き生きしていた。

どのゲームもただ楽しむのではなく、色々なメッセージがこめられたものだった。コミュニケーションの難しさ、みんなで協力して挑戦することの大切さ、仲間を信じることの勇気、どれも普段私たちが忘れがちだが、とても大事なことである。きっと参加者たちは、顕微鏡を覗いても見つけれないこれらのものを、少しだけ手に入れられたのではないだろうか。

グループワーク終了後、みんなの会話が格段に増えていた。



## 参加者の声



← 新井 佑子さん

「（最先端研究体験の感想）実験で、思っていたような結果を出せなかったのですが、それに対しても考察を加えてくださったのがとてもよかったです。」



← 吉田 隆央くん

「（グループワークの感想）楽しかったけど疲れました！」疲れたと言いつつ、嬉しそうにあだ名のことを語ってくれました。



等々力 成葉さん →

「（バーベキューの感想）とってもおいしかったです。何というか……おふくろの味でした！」



## 眠れない夜

大学生スタッフの作った手料理のいい匂いが立ち込める筑波大学内のクラブハウス。石和貞男国際生物学オリンピック日本委員会運営委員長の開会挨拶、田中敏筑波大学副学長の挨拶に続き、毛利秀雄国際生物学オリンピック日本委員会委員長の乾杯の音頭により、待ちに待ったパーティーが始まった。

パーティー前のグループワークでたっぷり体を動かした参加者達は、かなりお腹をすかせていたようだった。見ていて気持ちのよい食べっぷりであった。

パーティーでは様々な料理がふるまわれていた。焼肉や焼きそばをはじめとし、メキシカンラップや手打ちうどんもあった。参加者は、「（グループワークで）たくさん動いて、料理を全種類食べてしまったので、今すぐ眠たいです。」「おいしいものをたくさん食べられました。作ってくださった方に感謝しています。」とリラックスした表情で話してくれた。

パーティーには、参加者の他に国際生物学オリンピック日本委員会の先生方や筑波大学の先生方、大学生スタッフが参加していた。参加者にとっては、普段なかなか話せない人達とコミュニケーションをとる絶好のチャンスとなったことだろう。

パーティーは興奮冷めやらぬまま、終わりの時間を迎えた。「今日は寝ずにみんなで話してしまいそうです。」という参加者の言葉通り、昨夜はきっと眠れない夜になったのではないだろうか。今日で生物チャレンジは最終日を迎えるが、終わってからもここで出会った仲間を大切にしてほしい。



### 今日の予定

9:00 最先端研究体験  
11:30 表彰式  
13:00頃 解散

### 今日の天気

天候   
降水確率 40%  
最高/最低気温 28℃/20℃

